

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371001559
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋一色の家
訪問調査日	平成 20 年 9 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 4 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2371001559
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋一色の家
所在地	名古屋市中川区一色新町2丁目2001番 (電話)052-309-3666

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市中種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年9月15日	評価確定日	平成20年10月4日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 4.2 人	

(2)建物概要

建物構造	造り		
	2階建ての	階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		1ヶ月 39,000円(おやつ代含む)

(4)利用者の概要(8月 30日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	78 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山口医院・のぎき歯科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地にあり落ち着いた雰囲気のあるホームである。職員と利用者が一緒にできる事を増やすことをホームの基本としている。理念に沿って日々共に過ごし、一人ひとり言葉かけの工夫により根気よく本人自らのやる気の引き出しに職員全員で努力している。今後、さらに職員を育てる取り組みにも力を入れケアの向上を図りたいと管理者は考えている。家族との関係も折に触れ深めるよう努力し良い関係を築くことができている。地域の理解を得るために地域の行事への参加や資源ごみ収集所の掃除をボランティアで実施すること等で地域との連携・交流に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点として、相談内容記録表の活用が増えたことにより、利用者の様子や気持ちの理解を深めることが出来るようになってきている。職員全体での理念の共有・取り組みなど、十分できていないものもある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を個々にみて振り返りや気づきができた。そのことをケアの質の向上に活かすよう努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回開きホームの行事報告をし、参加メンバーから質問、意見、要望をもらって地域との連携・交流に取り組んでいる。運営推進会議で検討され、資源ごみ収集所の掃除をボランティアで行うことが実現されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時など個別的に相談を受け、相談内容・要望、不安、苦情などを記録表に記入しミーティングで話し合い反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の中学生のボランティア・体験入学の受け入れ、町内の資源ごみ収集所の掃除のボランティアとして利用者も参加している。敬老会や運動会等、地域の行事にも毎年参加している。散歩や買い物に出かけ、近隣の人々との交流・触れ合う機会も多く馴染みの関係ができている

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく、穏やかな介護をめざします」を理念とし、職員はゆったり穏やかにその人らしく生活できるよう、同じ思いで毎日の生活を支援し、地域で支える町づくりを目指している。声かけ、基本的な介護の仕方を基に全職員が同じケアができるよう努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの運営理念を玄関、リビングの見やすいところに明示している。ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも確認し合うようにしている。	○	職員全体で理念に基づいたケア、個別ケアの大切さ等、話す機会を増やすことで理解を深めて頂き、理念の実践に向けた取り組みを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学校の運動会や敬老会に参加している。地区の中学生がボランティアとして活動に来てくれる。また、落語研究会による漫談など、地域との交流がある。町内の資源ごみの収集場所の掃除をボランティアで利用者も参加している。	○	今後は中学生の受け入れやボランティアの受け入れ等、定期的実施されることまた、資源ごみ収集のボランティア活動を継続されることを望む。更に町内会参加等でグループホームや認知症についての理解を深めるよう努めて頂くことに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については個々にみて振り返りや気づきがあった。外部評価の結果をミーティングで報告、相談内容記録簿の活用が増えている。	○	自己評価について、個々に行うだけでなく全職員で検討し、会議等を実施して頂きケアの質の向上に反映して欲しい。外部評価で明らかにされた課題も報告・検討し取り組みを具体的な改善に活かしていくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームでの行事等報告をし、参加メンバーから質問、意見、要望をもらっている。運営推進会議を通して、資源ごみ収集所の掃除をボランティアで行えるようになった。今後も地域との関わりが増えるよう意見をもらい取り組んでいきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業所の実績、ケアサービスの取り組みを伝えている。生活保護課担当者の訪問は半年に1回あり、状況を確認してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居時に月一度は面会に来て頂くことを説明している。毎月10日には請求書を家族に取りに来て頂くこととして、面会の機会を確保している。毎月の訪問時の他、面会時や電話等で報告を行っている。定期的にホーム便りを発行し、行事の写真などを見て頂いている。金銭管理は個人小口現金出納長に記入し、ご家族に承諾を得、サインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時に何でも言ってもらえるよう、個別的に話し合う等の配慮をしている。要望等は相談内容記録表に記入しミーティングで話し合い反映させている。相談内容記録表の活用が増えている。また、手紙でも何でも話して頂くことを促している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することを重要と考えている。新しい職員が入る場合も、利用者きちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうよう工夫している。職員の異動等で利用者が影響を受けないように努力している。	○	ご家族様にも異動の報告をし(個人情報保護法に触れない範囲で)、家族との連携・協力することでも、利用者へのダメージを最小限に抑える努力をして欲しい。また、家族の不安解消にも努めて欲しい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修は半年に1回定期的に行っている。事業所外での研修にもなるべく参加できるよう研修費用の補助、情報の提供を職員全員に積極的に行っている。非常勤職員は研修参加が難しい現状がある。研修レポートで報告している。	○	研修報告をプリントによる伝達から、ミーティング等の後に実施する等、研修伝達方法・共有方法を検討して頂き参加できない職員の方たちのスキルアップを図って頂くことに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会の分科会、中川区介護保険関連事業連絡会に参加して交流を図っている。相好訪問を行っている。これらの活動を通じてサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は入居前に自宅訪問や他の施設利用先などで本人とコミュニケーションを取る機会をもうけ本人や家族の納得の行く入居となっている。入居後は安心出来る様に職員が声をかけたり、また、他に利用者との間に入り馴染めるようにサポートしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が支え合う関係をホームの基本としており、利用者から「ありがとうね」や「がんばってね」など励ましの言葉をもらったり、調理の時等に生活の知恵など教えてもらうこともあり共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での気付きノートを活用したり、利用者とは会話の中から表情など汲み取り思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難の人には家族から情報収集して本人の希望により添い検討しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族との関わりの中で意見を聞き、その人らしく生活できるようカンファレンスを行いながら介護計画を作成している。主治医・かかりつけ医の意見の取り入れがみられない。	○	かかりつけ医・主治医の意見を取り入れ、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を作成されることを期待する。また、介護記録の個別ケア欄の活用も継続されることを望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フローア会議、カンファレンスでシートの見直しを行っている。新しい書式へ移行中、継続できていない。介護計画書には短期・長期目標期間及び評価が記入されておらず、サービス内容も具体的なものになっていない。	○	介護計画書はいつ誰が見ても、その人が見えるような具体的な個別ケア内容の介護計画書が望ましい。短期目標・長期目標を明記し、期間毎に評価を実施して評価を活かした介護計画書、現状に即した計画書作成に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の馴染みの美容院に付き添ったり、家族が対応が困難な時の通院などは職員が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を協力医に、利用者や家族が納得行くうえで変更をお願いしている。しかし入居前のかかりつけ医の人は家族が通院の付き添いを行っている。協力医は毎週往診がありかかりつけ医との情報は共有できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療が必要でホームでのケアサービスが困難な場合他の施設で対応してほしいと説明している。退去先に情報提供など協力する用意はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については、本人や家族に同意は得ている。職員は個人情報保護と守秘義務については理解しており入社時には同意してサインしている。利用者に対して言葉使いは優しく対応しており、誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋にいたことが長い人に少しずつ根気良く声をかけることで他の利用者と一緒にいる時間が増えたり、本の好きな人がゆっくり読むことができるようになるなど職員はその人が何をしたいのかを把握しホームで出来ることを増やしてそれに向け支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に調理したり味見や後かたづけなども行っている。職員は1人は利用者と同じ物を食べており、介助しながら食べこぼしなどさり気なくサポートしている。ホームの畑でできた野菜が食卓に並び会話がはずむ時もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる対応はしているが、利用者が1日置きに入ると決めている人もいる。入浴拒否がある人には、職員がかわり声をかけたり、時間を置いてみたり、入浴の順番を1番にしてみたりと工夫しているが、シャワー浴で対応する時もある。入浴時間帯は13:30分頃から、ゆったり寛いで入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性の利用者にはちょっとした修理や畑仕事、居室のカーテンを開けるなど役割がある。他調理や編み物、カレンダーめくり、掃除や畑仕事などホームに来て役割や楽しみ事が増えてきており、職員は常に向上心をもって利用者の楽しみ事を増やす場面作りを検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	おやつを持って近隣の公園にったり、利用者が小遣いを持って買い物に行ったり、喫茶店やカラオケに出かけたりする機会はある。また、職員は布団を干したり、洗濯物を干したり、畑の手入れや草むしりなど外に出る場面作りを工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者が外出しそうな時には一緒に出かけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は2・9月に行っている。先回は火災報知機の止め方など訓練している。2日分の非常食の準備はしている。消防計画書もあり、災害の時にはホーム内待機で近隣の協力を得られるよう働きかけて行くとの事である。	○	定期的に避難訓練を行い職員が落ち着いて対応出来る様になることを望む。また夜間を想定した訓練も行うことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎日記録しており栄養バランスは概ね取れている。水分摂取は大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者の笑顔いっぱいの行事の写真が飾られている。窓が広く隣のびわの木が見え季節を感じることができたり、ホームの畑が良く見え収穫時期がよくわかり、利用者の楽しみの一つとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はテレビ、タンス、家族の写真、本、編み物など持ち込まれ利用者が居心地良く過ごすことができている。		